

令和7年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	30	学校名	海津明誠高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	歴史と伝統を誇る海津市唯一の高校として 普通科、商業科、家庭科の特長を活かした探究的で協働的な活動を通して 地域を支える人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。 (1) 自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成 (2) 基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底 (3) 「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・ 「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・ 「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・ 「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・ 普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かし、地域との連携を深め、地域課題を発見・解決するふるさと教育の推進 ・ 探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実し、協働的な学びを通じた、個々の「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」の育成 ・ ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、進路希望と特性に応じたコース選択によった、大学進学に対応できる学力の向上ならびに、地元企業等で即戦力となる人材の育成 ・ 商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、知識基盤やグローバル化といった多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・ 地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通した、生活における様々な課題を自ら解決できる力と職業観・倫理観の育成	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・ 人とのつながりの中で、感謝の気持ちを忘れずに、規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・ 学習や学校内外の諸活動（HR活動・生徒会活動・部活動・学校行事・ボランティア活動等）において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・ 人の意見に耳を傾ける姿勢・自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・ 高校生活を送る海津市を始めとする自分が育ったそれぞれの地域とのつながりを大切に、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いを持った生徒	
学校の抱える課題	・ 海津市唯一の高等学校として、地域とのつながりが深く地域からの期待も大きい、少子化や高校選択の多様化の中で慢性的な定員割れを起こしている。 ・ 義務教育分野の学習でつまずきを感じている生徒に対する丁寧な支援に加えて、学習意欲を喚起するような学校全体の取組の工夫改善が必要である。 ・ 友人間の小さなトラブルに適切に対応する力が乏しく、人間関係を築くことに苦手意識をもっている生徒も少なからずおり、生活面でも丁寧な見守りが必要である。 ・ 海津市の地域課題解決につながり、かつ、学校全体（普通科、専門科）が一つになるような大きな取組を考えていく必要がある。		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	生徒の興味関心や進路等に応じた具体的な目標を定めさせ、「自ら学び自ら考える」態度を育成する。 正解が一つではない問に対し、納得解を得られるような探究型学力を育成する。	
	進路指導	進路サポーター制度を活用して、生徒一人一人の適性を大切に、生徒が自らの進路を自らの手で実現できるようにキャリア発達を支援する。 キャリア教育の全体計画に基づき「進路意識・学力・進路実現性」を高める事業を全校体制で計画的・継続的に実施する。	
	生徒指導	生徒が自他の生命の安全と人格を尊重できるような支援や指導を実施する。 遅刻防止指導や授業の開始・終了時の挨拶等を通して、基本的な生活習慣や礼儀正しい態度を育成する。	
	特別活動	生徒の自己肯定感を育み、自己実現を図るための場として、部活動の充実を図る。 活力ある高校づくりを目指し、地域のイベントやボランティア活動等への参加を通して地域貢献活動に取り組む。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	地域を知る学習、地元企業や地域の方々との共同学習を深め、「ふるさと海津」に貢献できる人材を育成する。	施策Ⅰ-4	生徒による授業評価・分析、保護者アンケート				
	生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業研究や授業形態の工夫を図る組織風土（学びあいの風土）を作っていく。	施策Ⅱ-8	公開授業週間の教員交流、校内研修				
	ICT機器を活用した授業実践、授業研究を通して、生徒自身のICT活用能力を高める。	施策Ⅱ-9	生徒によるICTを活用した発表 教員によるICT活用の実践交流				
	中学校や高校での既習の学びを振り返りながら、個別対応により基礎学力の定着を図る。	施策Ⅱ-8	基礎学力テスト結果分析				
進路指導	生徒一人一人が描く未来像や各々の学力に適した補習や試験を実施することにより学力の向上を図る。	施策Ⅱ-8	補習授業の充実と、各種試験結果の分析				
	地元産業・企業及び認定こども園等と連携し、商品開発や研修を通しキャリア発達を図る。	施策Ⅱ-13	学習成果発表会の評価や検 定試験結果				
	学年会等と連携し進路サポーター制度を円滑に運用すると共に、外部講師によるガイダンスや保護者対象進路説明会を効果的に機能させる。	施策Ⅱ-14	生徒アンケートと保護者ア ンケート				
	「進路だより」や「進路の手引き」、HP等を活用して、職員・生徒・保護者にタイムリーな情報を発信する。	施策Ⅳ-20	「進路の手引き」ワーク シートの確認				
生徒指導	生命の尊重的呼びかけや不審者被害防止指導を実施する。	施策Ⅰ-1	集会・LHR等での指導や呼び かけの実施				
	MSリーダーズが中心となって、挨拶や交通安全をよびかける。	施策Ⅲ-19	年間交通事故者数 ヘルメット着用率の確認				
	家庭と連携した全教員による遅刻防止指導を徹底する。	施策Ⅰ-7	年間遅刻回数のべ500回 以下				
	教育相談活動やいじめ・不登校を早期発見・早期対応するための組織体制と家庭との連携強化。	施策Ⅰ-3	日常的な情報共有の実施 会議や調査の実施				
特別活動	生徒一人一人が主役となって他と協働しながら活躍できる生徒会活動を実施する。	施策Ⅰ-1	生徒が運営する行事の割合				
	地域行事への協力やボランティア活動の推進等、地域との連携を強くする。	施策Ⅰ-4	各行事やイベントへの参加 実績				
	部活動を活性化し、全国大会・東海大会への出場・県大会上位入賞を目指して活動する。	施策Ⅳ-24	各大会への出場実績・成績				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日